

平均

九分七厘七毛弱

となるから、各資金が二割の利益を果ければ二割五分配當が出来ると言ふのである。かゝる方法で鐘紡の資本運用がなされてゐるのは實際であるから今後二割五分配當は續け得られるものと豫想する。

すると新鐘の拂込は、先づ十三年末に十二圓五十錢拂込みが徴收され十五年末に最後の拂込があると見られるのである。その豫想で計算すると、新株は百六十圓でも若干の利になる。親を買ふより新を買つて置いた方がよい。詳しい計算は面倒だから載せないが百六十圓の相場で買つても八分一厘の利廻になるのである。故に投資的に新株を買ふなら今の百五十圓で買つてよい。それ以下なら一層よいと言ふ理屈になる。

斯う言ふ計算をして投資筋が買ひ出すと新鐘は前言つた通り一日に五圓も飛び上る。實に上げ足が早い、その代り利喰ひが出て下ると又此れも早い。

その騰落を利用して短期間に儲け様とする思惑には安くば買ひ高くば賣る。百五十圓を割つて百四十五、七圓となれば買ひ、百六十圓、そこまで行かずとも百五十二三圓になれば賣る。こう言ふやり方でも儲かるのである。

新鐘の過去

新鐘の相場は右の通りであるが、次に少しその過去を調べて見る。鐘紡は高率配當を以て鳴る會社であるが、大正七年から十二年までの間には普通配當二割に特配を五割つけて七割配當を續けてゐる。其頃新鐘は四十圓拂込であつたが、九年の三月には五百五十三圓と言ふ途方もない高値を出してゐる。併し當時親鐘の最高値は五百七十四圓であつたから四十圓拂込株としてはまだ割負であつた。

この七割配當は大正十二年上期まで續いて、その後下期六割、十三年上期四割八分、下期三割八分と減配して、昭和二年からは三割五分、五年上期に二割八分、下期から二割五分となつた。其後は二割五分のまゝで動かない。業界が好調でも増配しない。

此の二割五分になつてからの新鐘相場を年別高低だけ掲げて置く。(長期先物相場)

新鐘相場表

	最高	最低	平均
昭和五年(七月—十二月)	七〇・三	五〇・〇	六〇・一
			三七

六	年	中	九八、五	五五、四	三八
七	年	中	一四二、一	七八、四	七三・二
八	年	中	一四三、九	七八、九	九六・二
九	年	中	一四九、〇	一一五、五	一一五・六
十	年	中	一六二、八	一一一、一	一三二・二
十	一	年			一三六・九
一	一	月	一六二、四	一四七、三	
二	一	月	一六〇、八	一五六、二	
三	一	月	一五五、九	一三五、五	
四	一	月	一五三、四	一四二、八	

備考 九年九月以前は十二圓五十錢拂込でその後は廿五圓拂込である。

配當は全然動かないでも金利が低下して行けば採算點が下つて行くから相場は上る。それに拂込が近づくとその利益を得やうとする買氣が出て騰貴する。

其の外新株は比較的少い金額で相場が張れるので、株界の事情がよいと買ふ人が多くなり一層高

い。以上の反對に拂込が一寸行はれなかつたり、金利が引締ると下る。又根本的に綿業界の事情も根本的に影響する。若し二割五分配當が危いとなれば、採算は根本的に變更されるからである。

綿業界の先行と鐘紡の配當力

では鐘紡は二割五分配當を維持して行けるであらうか。それは當社の収益力と綿業の動向如何に懸る問題である。鐘紡の最近の収益力を表示せば、

鐘紡業績表

期	利益金	利益率	配當率
七下期	六、三〇六	四・四一	二・五〇
八上期	七、〇五六	四・九三	二・五〇
八下期	七、二六一	五・〇八	二・五〇
九上期	七、五八七	五・二九	二・五〇
九下期	八、一一五	四・八〇	二・五〇
十上期	八、七二〇	四・四六	二・五〇

上表の如く利益率の一等高かつたのは九年上期の五割二分九厘で、その後は利益金は増加したけれど、拂込が一千萬圓許り増したので利益率は少しく低下して四割八分、四割四分となつてゐる。これは一つには綿業界が九年下期當りから生産過剰に陥つて、やゝ不振状態となつたからで、輸出は益々益加するのはしてゐるが、その増加率が鈍り、原價高、製品安で採算が悪化した爲めである。

今日と雖も綿業界の景況は不振であつて、未だ立直りに遑入つて居らぬ。けれども鐘紡の利益減の程度は輕微なもので、此の不振状態の中に四割四五分の利益を擧げて居るとすれば、今後共二割五分配當に狂ひが来る事はあり得ない。

前にも述べた如く資金の巧妙な運用が行はれ、多角經營に依つて収益状態の安定化が行はれてゐる。この内部的の操作と、綿業界としても紡績聯合會の手で統制が行はれ、生産過剰、増錘に對し、操業短縮を以て防禦工作が行はれる。輸出方面では、鐘紡、東洋、大日本の三本で新輸出會社を創設して海外發展に積極的の力を入れる等、多くの對策が採用されてゐる。

かゝる次第故、鐘紡が減配すると言ふ如き事態も目下の處考へ及ばない。従つて新鐘の採算も二

割五分配當を基礎にして大丈夫である。

新鐘相場の大勢

新鐘は昭和五年の四十七圓九で大底をつけてから騰勢を辿り去る十年十二月の百六十二圓八まで上り續けてゐる。勿論其間には度々反落期間があり、山あり谷ありであつたが大勢的には此の間騰げ足であつた。

そして二・二六事件で百三十五圓まで下つて一寸下げ足になつたかと感と興を與へるが併しまだ果して大天井を打つたか否かは今後の動向を見ずには斷言出来ない。

新東と違ひ、基調が利廻採算にあるから、低金利の進行如何ではまだ高値を持つかも知れぬ。若し十年十二月の高値が大天井であつたとしても此のまゝ新東の様な急な下げ足にはならぬ。何故かと言ふに下値が採算上支へられるからである。

事業株は一般に高値になつてから大天井打ち後も長い保合期間を有するもので、財界の狀況がデフレーションに變化すると言ふ時に一舉に下げて大底に向つて急奔落するものである。

従つて新鐘の相場は今後當分大巾保合であると思ふ。安値は百三千圓程度、高値は百六十圓程度

此の間に於ける浮動である。今秋増税が具體すれば、新東と同じく下げるに相違ないがそれまでは過般の高價百六十圓までは上る見込がある。

而して下げたり上つたりで、當分は百四十五圓以下はない。今秋の増税問題で、下げるとして百三十圓であらう。

故に新鐘の方針は、大勢押目買である。中勢も押目買ひであるが、吹値は賣つてもよい。

第四章 日産はごうなる

日産株の最近

日産は近來著しく投機性が薄らいで來た。投機的に日産を扱ふとすれば買ひよりも賣りであると言ふ時代である。

昭和八、九年の日産の活躍振りは素晴らしいもので、日本鑛業の株式を賣出して巨額のプレミアムを握つてから以來、日立製作株の賣出し、日本捕鯨大日本製氷の合併、日鑛、日立の増資、自身

の増資、等矢繼早に問題を提供して一世を風靡したものであつたが、其の後、其の餘りの積極策が不安を持たれ、株式増加の壓迫も加つて、次第に不人氣となつて今日に至つてゐる。

けれども往年活躍の風貌は全く失はれたものでなく、先般も日銀の金價買入値引上げが發表さるゝや急舉五圓巾の急騰を見せた邊り決して悔り難いものがある。

日産は周知の通り持株會社である。自社自身では何らの事業も行つてゐないのであるから、子會社の成績如何で其の前途は決定するのである。處が一方に非常に利益の擧る日鑛や日立の様な事業がある代りに一方可成り不安な事業もある。自社の配當を維持する爲めに子會社中の優秀な處に無理配當をさせる風もある。又株式賣出しの爲め不定期收入をあまり過大に考へ過ぎた點もあつた。

若し不景氣時代がやつて來ると、甚だしい不振に陥つて無配當に墮し去る危険なしとしない。過去に於てさう言ふ時代があつたのであるから條件の好い時代には持てはやされるが悪くなると、一齊に賣り逃げ様とするから株價も目もあてられぬ状態に陥るかも知れぬのである。

日産の収益率と配當率

日産は十年下期では二分減配した。それまでは一割二分配當を行つてゐたが、少し無理があつた

から一割に減じたのは當然である。今最近の業況を表示すると。

日産業績表

	利益金 千圓	利益率 割	配当率 割
七下期	一、一六三	〇・四四	〇・四〇
八上期	五、五五五	二・一二	〇・八〇
八下期	五、九一〇	一・八二	一・〇〇
九上期	一〇、五九一	二・八二	一・二〇
九下期	一一、九三二	二・五〇	一・二〇
十上期	六、七四七	一・三六	一・二〇
十下期	七、六〇六	二・三五	一・〇〇

日産の最盛期は九年前であつた。其後は増資で拂込資本が増したから、利益金が多くても利益率は下つてゐる。十年になると利益が減じてゐる。利益率一割三分程度で一割二分は勿論無理である。固定資産のない会社であるから、償却は不要であるが、それにしても子会社に融通する資金も必要だから、難の無い處は八分配當位であると思ふ。一割さへ少し窮屈だ。

今後此の程度の配當が續けられるかどうかが問題であるが、次に日産子会社の配當率を調べて見る。

日本鑛業	一割四分
食料工業	一割
日立製作	一割二分
共同漁業	一割二分
日産自動車	五分
日本炭鑛	一割
合同工船	一割五分
日立電力	九分
日産ゴム	一割
日本捕鯨	一割
山田炭鑛	一割二分

これで見ると中々立派なものである。併しこれらの配當金は合計で一千九百萬圓程遣入り、當社

の借入金利子を差引くと一千四百三十萬圓程である。拂込資本が一億二千四百五十萬圓であるから、恒久的には一割一分程の利益率である。何時でも株式の賣却益を利益の中に入れて、前に記した利益率を出して居るのである。それは併し何時迄も続くものでない。又各子會社の配當も続くかどうか疑問であらう。現に日本鑛業の一割四分がどうであらうかと不安がられた位で、先般の金價引上げで漸くその不安が無くなつたのである。

日立も先頃大阪鐵工を賣收させられて無理をしてゐる。その他のものも今すぐどうと言ふ事もないが永久的とは言へない。

かく見來ると日産は當分一割配當を維持するとしても、先行き増配の楽しみはない。むしろ減配の不安の方が多いのである。

日産の株價

現在日産の株價は先物で七一圓四五である。其の利廻七分である。七分の利廻りは二流以下株の利廻りと言はねばならぬ。減配不安を多分に織込んでゐる事を知られるのである。例に依つて昭和五年頃からこちらの株價を表示しやう。

日産株々價表

	最高	最低
昭和五年中	三二、六	一一、九
六年中	二九、九	一五、一
七年中	九六、九	二三、三
八年中	一三〇、五	六四、八
九年中	一四七、〇	九六、一
十年中	一〇六、三	六六、六
十一年		
一月	七六、四	七二、九
二月	七七、四	七四、四
三月	七五、六	六七、四
四月	六七、八	六三、〇

昭和五年から七年以上期までは無配であつたから株も僅か十一圓九と言ふ拾値見度いな相場があつ

た。七年下期に四分配當になつてからは九十六圓まであり、爾後漸次騰貴して九年には最高値百四十七圓をつけたのである。

其後は下り坂になり九年十一月九六圓一で一番底十年六月六六圓六の値で二番底を入れ、其後は十年九月九〇圓四があつた後三度下足になつて十年下傾の二分減配で七十圓臺へ下り、先般の二・二六事件後の六十二圓四があるまでは殆んど七十圓臺で保合つてゐる。

最近は七十圓臺に再騰してゐるが、前述の通り、前途減配の不安があるから、兎角賣られ勝ちである。

日産株の方針

斯くの如き状態であるから、日産は買安心と言ふわけに行かぬ。子會社中日鑛は一割四分配當を續けられるであらう。日立も現配當を續けるに違ひない。そして當社も一度減配した後故、一二期は一割を續けやう、けれども一端下り足になつた上可成り下値になつてゐるのであるから百圓以上の相場へ戻る希みは然々ない。恐らく七十五圓から八十圓近くへ戻れば再び實株の繁きが出て上を抑へられる。

故の、日産の方針は戻賣りである。大勢的にも中勢的にも戻賣りで行つた方が安全と思ふ。

但し下値も當分六十圓までと考へて頂き度い。増税問題の出た後は五十圓相場を出すかも知れぬが、そう云ふ安相場が出たら一應突込み買ひである。而して其後も矢張り戻賣りと御記憶願ひ度い。

第五章 大新、鋼管等

大新は新東と同じ

大新は新東と同じ純投機株である。現在七十五六圓で利廻り二分六厘、新東の二分一厘に僅か四厘程位負けてゐるのみである。拂込は廿五圓である事は諸君は承知の處である。

大新の相場は新東と規を一にし、殆ど相等しい足取りを以て動くからあまり説明を要すまい。簡単に大株最近の配當率と、新大株の相場高低を表にして聞かう。

大株配當率と大新相場

配當率

株

價

昭和五年上	最高	最低
〇・三〇	五八、四	三六、一
〇・四〇	五三、〇	三八、四
〇・五〇	七一、三	四五、七
〇・五〇	八五、一	五一、七
〇・五〇	八四、七	五五、一
〇・五五	一二五、一	五五、九
〇・八〇	一四〇、四	七九、一
〇・八〇	一四〇、九	一〇五、三
〇・八〇	一三七、一	一〇一、四
〇・七五	一〇七、二	七八、九
〇・七五	一〇〇、六	八三、八
〇・七八	一〇五、七	八三、五
十一月	九七、六	九三、七
一月		

五〇

大新も八年上下期八分配當をした頃は一四〇圓相場があつたが、其後は漸次下落して百圓割となり、二・二六事件後は七十圓臺に落ちてゐる。今期は大株の業況不味で若干減配せねばならぬらしいが、しかし大した事はないであらう。その點、新東よりやゝ具合が悪いが、それにしても人氣によつて動く株故、新東と同じく當分押目買で、秋になつて戻り賣になるであらう。

鋼管押目買

二月	三月	四月
九五、〇	八四、〇	七五、六
九三、四	六七、四	七〇、〇

鋼管も昭和七年再禁止後猛烈に躍進した株である。不景氣時代はボロ株の代表者の如く見られてゐたものが、現今不振時代でも百十圓邊りを保つてゐるのがあるから、その飛躍振りは驚異に値する。それも一重に軍需景氣のお蔭であると言ふべきだが、不景氣時代に減資整理で、大いに基礎を固めて置いたお蔭も少くない。

現今相場は百三、四圓で利廻りは八分三厘である。此の利廻りで一割七分の高配當は續けられな

いと見込まれてゐる爲めである。併しこれが一割五分に下つたとしても六分六厘の利廻りであるから投資的には買餘地充分あるものである。

製品が時局關係のものであり、政府の鐵鋼政策も日鐵中心主義から轉向して當社その他の民間會社に溶鑪の建設を許可する事になつたから、當社も更に新溶鑪を建設して事業規模を擴大し、鐵鋼一貫作業を徹底する事にしてゐる。

其の結果はコストが非常に安くなるから、収益力も向上するであらう。製鐵獎勵法が改正されて免稅の特典を失ひ、更に増稅もされるところでも低金利時代、採算上安い株が買はれるのは當然である。唯二度の増資ので株式數が多くなり、高値で買った連中が、少し値がよくなると繋いで來る爲め伸び切れないのである。

鋼管の配當と株價を表示すれば次の通り

日鋼管配當率と株價高低

昭和五年上	配當率		株價
	割	最高	
	ナシ	一、一、七	最低 五、一

十一年	十年上	十年下	九年上	九年下	八年上	八年下	七年上	七年下	六年上	六年下	一月	二月	三月
一・七〇	一・七〇	一・七〇	一・七〇	一・七〇	一・二〇	〇・八〇	〇・三〇	ナシ	ナシ	ナシ	一〇七、〇	一一四、八	一〇九、九
一一一、八	一一九、七	一五五、九	一五八、三	一四三、九	九六、五	八一、〇	二九、九	一八、五	九、五	八、九	一一三、六	一〇五、三	一〇一、四
八五、六	八七、一	一一八、一	一二三、五	九一、五	七四、七	一七、八	一六、五	六、四	五、三	五、〇	五三		

五、六年の無配時代は反古同様只の五圓と言ふ値でさへあつたものが、黄金時代を迎へて一割七分配當を續け、百五十圓まで上つたのであるから正に十五倍となつたのであつた。

今日減配だらう〜と言はれ乍ら、すつと一割七分配當を續けてゐるのは偉いものである。筆者は、鋼管びいきで、どうも此株が百圓以下に落ちる理由を知るに苦しんでゐる。最近は何圓から百十圓の邊で浮動してゐるが當分此の邊で保合ふものと思ふ。最悪の場合でも十年七月の八十五圓までとそれ以下は無く、百圓相場が普通と思ふ。

若今一、二期一割七分が續けば百二十圓もあるのではなからうか。鐘紡も同じく押目買ひで、九十圓以下は絶対買ひであると思ふ。勿論高値で繋ぐ事を忘れてはならない。

その他色々得心可きことがあるが紙面がなくなつたから省略する。

(了)

昭和十一年八月廿三日 印刷
昭和十一年八月廿六日 發行

不許複製

これからの財産株と其の買ひ方 (他三篇)

特價三十錢 (送料四錢)

編輯兼 發行人 森 田 益 雄

東京市麴町區有樂町二ノ二

印刷所 更生社印刷所

東京市芝區新橋三ノ二〇

冊子即賣普及會

發行所 森 田 書 房

東京市麴町區有樂町二ノ二
振替東京九九二一四番

森田書房刊行書目

Table of book titles and prices on the right page, including titles like '谷孫六者世渡り秘訣百ヶ條' and '谷孫六者孟子の說法'.

森田書房刊行書目

Table of book titles and prices on the left page, including titles like '新編 森田書房の陣容' and '谷孫六者世渡り秘訣百ヶ條'.

既刊書御注文は、すべて前金にて御願ひ致します。御申込は當書房又は最寄書店へ。送金は振替又は郵便切手のこと。

全國主要書局名店發售中

森田書房刊行書目

冊子即賣
普及會

大黒	鳥三著	世界の秘密結社を探る	價一〇	鳥影盟著	山の不思議・海の怪異	價一〇
谷孫六著	金作り	の秘訣百ヶ條	價一〇	孝田著	轉向のソヴエート	價一〇
谷孫六著	孟子の說法	(世渡り急所の巻)	價一〇	波人著	持株を處分する急所	價一〇
波人著	花形株の動向	打診	價一〇	波人著	ふたりは若アーイ	價一〇
千田著	證券相場の見透し		價一〇	千田著	明治八年	價一〇
千田著	お定事件の真相		價一〇	千田著	明治八年	價一〇
御手洗著	恐る可き赤軍の威力		價一〇	千田著	明治八年	價一〇
新開社編	罪を裁かれる人々		價一〇	千田著	明治八年	價一〇
千田著	明治・大正・昭和事變、事件史		價一〇	千田著	明治八年	價一〇
成田男著	オリエンタル早わかり	(陸上・水上豫想)	價一〇	千田著	明治八年	價一〇
ベリス著	全日本選手權大會豫想		價一〇	千田著	明治八年	價一〇
小笠原著	「實話」無人島漂流奇譚		價一〇	千田著	明治八年	價一〇
直講著	近衛文麿公を語る		價一〇	千田著	明治八年	價一〇
話の王	二・二六事變の斷罪		價一〇	千田著	明治八年	價一〇
白須賀著	魔都「上海」の醜慄		價一〇	千田著	明治八年	價一〇
八木信著	映畫界の裏面		價一〇	千田著	明治八年	價一〇

◎既刊書御注文は、すべて前金にて御願ひ致します。御申込は當書房又は最寄賣店へ。

終

森田書房版